

国分寺 TBG 協会競技規則講習会

日本 TBG 協会競技規則解説（重要で且つ分かりづらい点）

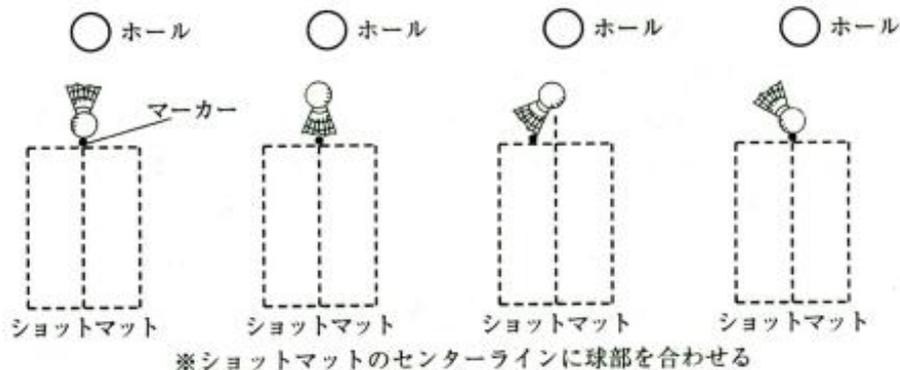
1. エチケット

- ① ストロークを行う前にクラブが当たる可能性のあるところに人がいないことを確認。
- ② プレイヤーがショットをする時は他の者は話したり、動いたり、前後に立ってはならない。
- ③ ホールエリア内でもプレーをしない同伴競技者は先にマットを置いてはならない。
- ④ 競技会の最中にマットにボールをセットして練習ショットをしてはならない。
- ⑤ 各自がボールをホールから自分で拾い上げるのは、全員がホールインした後
- ⑥ ジャッジはセルフジャッジが基本であるが、疑義がある時は、同伴競技者の同意を得る。

2. 競技

- ① OB の境界線及び池はロープ用いる。球の部分が触れていればセーフ。池は触れていれば池。マットを敷くと球の部分が OB ゾーンになる場合はホールに近づかないニヤレストポイントに移動。飛び地などでニヤレストポイントがない場合は手前の島に戻ってショットする。
- ② クラブはウェッジクラブ 1 本のみを使用する。改造してはいけない。マットも。
- ③ OB ボールをフェアウェイにコンパス方式で戻す時は、先にショットマットをセットし、ボールをピックアップした後は、ショットマットを動かしてはならない。
- ④ 第 1 打のティショットでは、ショットマットの先端がティラインより出てはならない。
- ⑤ フェアウェイにあるボールをショットマットにセットする場合は、ボールの球部の中心にショットマットのセンターラインを合わせてボールの最も遠い部分に接してセットする。
- ⑥ ボールマーカーはホールに最も遠い部分にセットする。

マーカーの位置とショットマットの置き方



- ⑦ OB、池等の境界を示す杭、旗等の標示物がプレーの妨げになる場合は、ホールに近づかない最寄りのプレー可能な一番近い所（ニアレストポイント）にボールを移動することが出来る。
- ⑧ ロープがプレー上危険な場合は、ショットマットの先端をその上に乗せて打つ。
- ⑨ アドバンテージホールの外フレームに球部が触れていればホールインとし、セカンドホールのフープの上にボールの球部が重なっていればホールインとする（1打付加）
- ⑩ ウインドストッパーは常に使用出来る。

罰則一覧 1打罰

- ① OB・池は1打罰。
- ② 1ストローク中にボールがクラブに2回以上当たったとき（2度打ち）は1打罰。
- ③ ボールが樹木に掛ったり、邪魔になる時他。アンプレアブルを宣言して1打罰。（コンパス）
- ④ 誤球した場合は、改めて正規のボールを誤球した所から1打付加してプレーする。
- ⑤ ティーインググラウンドの位置の誤りは正規のティーグラウンドの位置まで戻り、1打付加する。
- ⑥ バンカーでクラブヘッドが砂に接触した場合1打罰
- ⑦ ボールを打とうとした空振りには1打である

2打罰

- ① ボールを押し出したり、かき寄せたり、すくい上げてはならない。反則は2打付加。
- ② 誤球してホールアウトしたときは2打付加する。
- ③ 2打目以降ティーインググラウンドの誤りに気が付いた時は2打を付加してホールアウトする。

失格

- ① 定められたホール順にプレーをしない場合は失格となる。
- ② スコア-を間違えて提出した時

ローカルルールでの罰則（東京都のみ）

- ① ショットマットにボールをセットした後マットを動かした。1打罰。
- ② ティーマークより前に出てショットした。1打罰。

平成24年1月20日

国分寺TBG協会 競技委員 山田繁男